身近な芝生化構想

～刈れば野草も芝生～

NPO法人　スポーツクラブどんぐり

資料制作：㈱NISSYU PLAN

日本での芝生のイメージ

綺麗、気持ち良い、特別感、使用許可が得られない、雨天時使えない、管理が大変、高価、高コスト、高いレベルの試合時しか使用できない、、、

海外では・・・

庭先に

町の公園に

町クラブでも

芝生の定義

- 「土を覆って転んでも怪我をさせない青々としている形状」

- 草取りや除草は一切しない。

（一部、使用頻度や競技レベルに応じて芝生管理を行う）

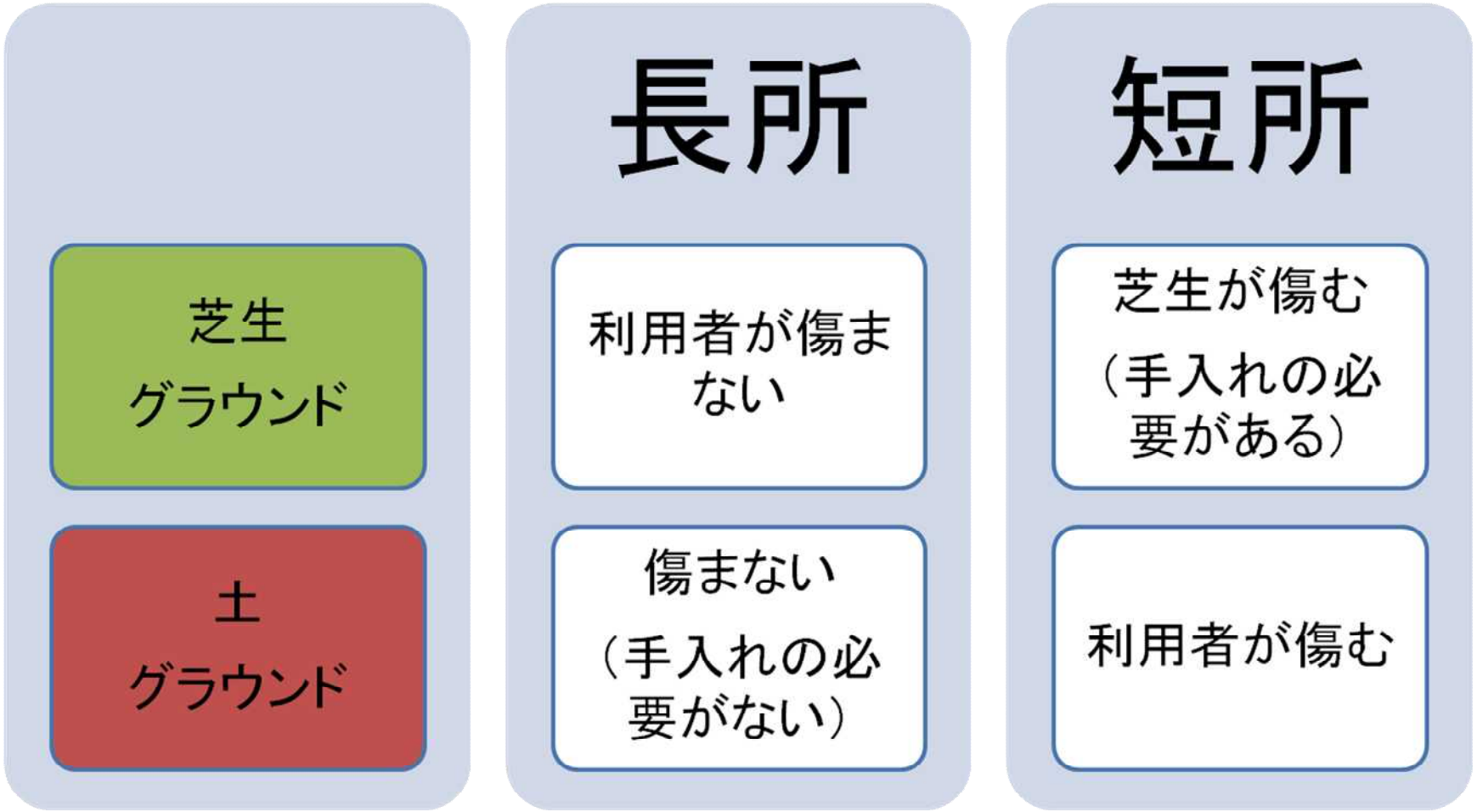
芝生の利点

- **転んでも怪我をしにくい**
- **身体を動かすことの恐怖心が軽減されることで、思いきり良く動き回ることができるようになり、基礎体力、基礎運動能力の向上が期待できる。**

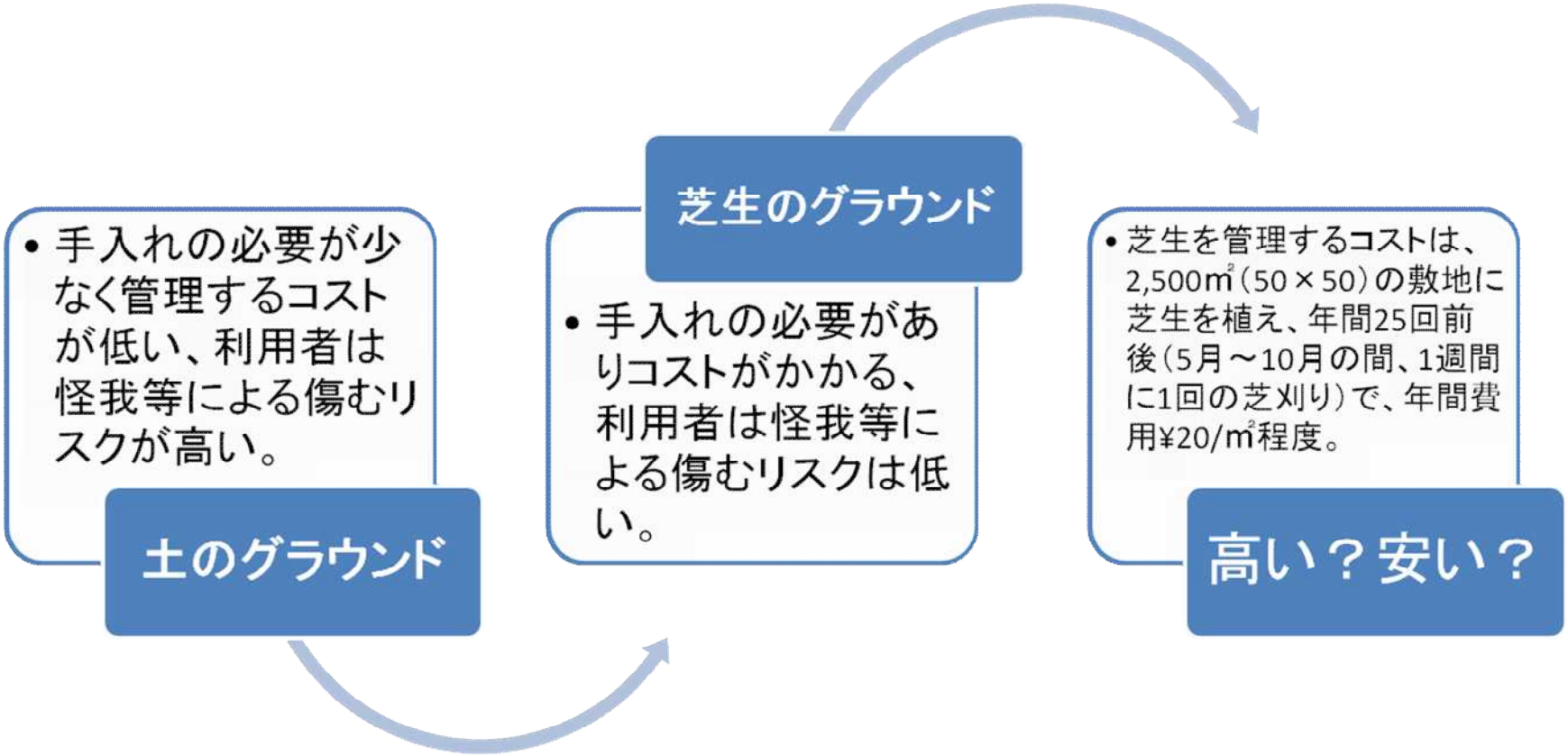
転ぶと

- 怪我や恐怖心を感じながら運動をすると、転ぶことへの恐怖心が潜在意識にインプットされるため、歩幅が狭くなり、運動に制限がかかってしまう。

芝生と土の長所と短所


長所
短所
芝生
グラウンド
土
グラウンド
利用者が傷まない
傷まない
（手入れの必要がない）
芝生が傷む
（手入れの必要がある）
利用者が傷む

立場で変わる
芝生と土の長所と短所



芝生とは・・・

- 芝は、イネ科の植物

- 芝には、

洋芝（西洋芝）/和芝（日本芝）
寒地型（冬芝）/暖地型（夏芝）に分類

サッカー場をはじめとする「スポーツターフ」
を考える時には、寒地型/暖地型と分類する

寒地型芝と暖地型芝の特性

- 寒地型芝（西洋芝）

  冬芝とも呼ばれ、冬季でも緑を保つが、暑さに弱い。５℃以上で成長を始め、最適な温度は２０～２５℃といわれる。３５℃以上で枯れ始めるが、０℃以下でも芽や根は枯れる事はない。

- 暖地型芝（日本芝）

  夏芝とも呼ばれ、冬季には枯れて冬眠に入るが、根は越冬する。１０℃以上で成長を始め、３０℃以上になっても成長は可能。

暖地型芝と寒地型芝

	暖地型芝（日本芝）	寒地型芝（洋芝）
気象条件	高温多湿を好む	温暖と適度な乾燥を好む
土壌条件	あまり選ばない	砂質土壌を好む
耐厚性	非常に強い	弱い
耐病性	強い	弱い
管理性	一般的に容易	難しい
主な用途	公園、庭等	サッカー場等

芝の代表的な種類

- **寒地型芝**
  ベントグラス類　（クリーピングベントグラス）
  ブルーグラス類　（ケンタッキーブルーグラス）
  フェスク類　　（トールフェスク）
  ライグラス類　　（ペレニアンライグラス）

- **暖地型芝**
  日本芝　　（野芝、コウライ芝）
  バミューダグラス（バミューダグラス、ティフトン）

各種の特性

寒地型芝

- ケンタッキーブルーグラス
  濃い緑色の葉色
- トールフェスク
  深根性が強く耐寒性も強い
- ペレニアルライグラス
  初期成育が早く高密度の芝

暖地型芝

- 野芝
  耐圧、耐暑強い
- コウライ芝
  耐暑、夏季に増殖する
- バミューダグラス
  コウライの２０倍生育力がある

サッカースタジアムの芝
日産スタジアム
埼玉スタジアム
東電スタジアム
国立競技場
神戸スタジアム
九州スタジアム
ケンタッキー
フェスク
ライグラス
バミューダ
ライグラス

芝生管理には・・・

①刈り込み

芝生管理作業の中で最も基本的なもの

↓

刈り込みによって上に伸びられなくなると、根元付近から若枝を活発に出すようになる

↓

結果、**密度の高い芝生面が作られる**

芝生管理には・・・

②散水

生物の生育に必要な水分補給はもっとも重要な作業

国立競技場のような通年完璧に生えそろった芝の場合
散水設備を整え、頻繁に散水する必要がある

一番身近にある公園や校庭であれば
自然の雨だけで芝生を維持できる

芝生管理には・・・

③施肥・病害虫

＜施肥＞

芝生が元気良く丈夫に育つには肥料は欠かせない存在

- 窒素（N）
  葉色を良くする
- りん （P）
  根を良くする
- カリウム（K）
  芝生を強くする

＜病気＞

病気は弱った芝生ほど、かかりやすく、体力の低かが一番の原因となる

＜害虫＞

芝生を食い荒らす害虫は、芝生にとって最も脅威、湿度が高いほど活動は盛んになり、発生も多くなる

芝生管理には・・・

④　更新作業

芝生グラウンドは徐々に床土が固くなる

・時間経過とともに根が張り巡るため
・利用によるプレイヤーの体重がかかるため

更新作業は、問題を改善する為の作業
・エアレーション（通気作業）・播種（種まき）・目砂（種の飛散防止）

更新作業用機械